

# 名古屋 文化 情報

2011  
6  
Jun.

No.327  
NAGOYA  
Cultural  
Information



## Contents

六月のうた	2
随想 北村朋幹 (ピアニスト)	3
視点 大震災と音楽 まとめ/小沢優子	4
この人と・・・ 平塚芳朗 (上) 聞き手/飯塚恵理人	6
ピックアップ	8
おしらせ	9



撮影：山口幸一

### 表紙

作品

「雲上眺望」(ウンジョウチョウボウ)

(2010年/54cm×11cm×10cm/ホウ・その他)

誰かが雲の上からじっとこちらを見ている。祖母たちからの影響だろうが、子どもの頃そんな想像をして、いたずらを思いとどまった記憶がある。

最近、ふとそんな感覚を思い出す自分がいます。

松岡 徹 (まつおか とおる)

1968年 愛知県岡崎市生まれ

1991年 名古屋芸術大学美術学部版画コース卒業

2004年 スペイン国立バルセロナ大学大学院留学

2006年 「カリヤファンタジー計画」刈谷市美術館

2009年 「佐久島のお庭 其ノ三」愛知県 佐久島

## 六月のうた

### 祈り

加藤 哲也  
かとう てつや

隅々まで気配りをせり蠅取草

青空に舌下のごとく蚊喰鳥

隣には誰が住むやら裸子と

手つかずの道を進めば雲の峰

滝壺に雨の祈りの続きをり

未曾有の大地震が発生した。そんな時、俳句は無駄だと思っていた。俳句では災害を詠むのは難しいのではと思ってきた。だが朝日新聞で「被災地へ希望を詠む」句の募集があり、それを見た(三月二十八日付)。大串章選の三句の内の一つ。

春月や瓦礫の町に嬰生まる 坂倉公子

奇しくも名古屋の方の作品である。この句は震災の時の状況を、ある意味そのまま十七音にしたためたものだが、そこから未来への希望の光が射している。これこそが俳句の力だと実感した。今更ながらのよここ。

(銀化、蒼宮)

## 随想

## 雨上がりの朝に



きたむら とも き  
北村 朋幹 (ピアニスト)

ある曲を聴くと、自然とある特定の情景が思い浮かぶことがよくあります。

それは、実在するのかもわからないような単なる想像の風景だったり、あるいはその曲とは時代・場所ともに全く関係のないものだったりもするのですが、中にはもう完全に曲の隅々にまでリンクしてしまって揺るぎようのないものもあり、日々の生活の中でふとそんな情景の欠片に出くわすと、何だかとても不思議な気分—それは多少デジャヴにも似ている感覚なのですが—になり、同時に少し嬉しくなります。

モーツァルトが生涯で4曲遺したフルート四重奏曲はどれも美しく、演奏に参加できないのが非常に悔しい作品群の1つなのですが、その中でも第4番イ長調K.298は独特の透明感といかにも室内楽的な温かさが格別の魅力を放っている1曲です。僕はこの第1楽章の変奏曲に前述のような強烈なイメージを持っています。演奏する側の人間が曲の個人的なイメージについて言葉で語りすぎるのはよくないとされていますが、この先、あのすばらしい曲を僕が演奏することはどう考えてもなさそうなので、せめてもの代償として書かせていただきます。

僕があ曲で想像するのは、ある庭の風景…初夏の早い朝日がまだうすらと庭を照らす頃に、夜の間に降り続いていた梅雨の静かな雨が止み、淡紅色の花の花弁からその水滴が時々滴

り落ちるのを窓越しにぼんやりと眺めている…そんな風景です。夏の朝というのは言葉で表現し難いような透明な静けさがあり、気温もまだそこまで上がらず（特にこの日は雨上がりなので）、しかもその風景は日があと少しでも高く昇ってしまったら失われてしまうというのがまた美しいと思うのですが、その一瞬、そして雨上がり独特の湿った地面の匂いまでもが脳裏に鮮やかに再現されます。これらのどの要素が欠けてもいけないし、花の色だって淡紅色でなければいけない。まさに音譜の1つ1つのように細かな部分まで描写できる、そんな感じです。

このような揺るぎないイメージを持つてしまうことが良いことかどうかは別にしても、ごく稀に、例えば自分が生きていて絶対に触れられないような特別な瞬間を、疑似的にでも体験できるのは音楽をしていて幸せを感じる1つの理由かもしれません。あるいは、現実でどんなに辛いことがあっても、音が鳴っている間だけはそこから離れ、自分だけの特別な空間に住むことができる…偉大な作曲家も演奏家も聴衆も、皆そのようにして実は常に音楽に救われているのかもしれません。

これから梅雨に入りますが、頑張っって早起きをすれば「あの風景」に出会えるかもしれない…なんて淡い期待を寄せる今日この頃です。

## 大震災と音楽

3月11日、午後2時46分に東日本大震災が発生。1000年に一度と言われる巨大地震と大津波が残した爪痕はあまりに深く大きい。復興と再生へ向けて少しずつ前へ進んでいかなければならない今、文化や芸術もその真価が問われている。大震災後の名古屋の音楽状況を振り返ってみた。  
(まとめ：小沢優子)

### 大震災直後

3月11日は、名古屋フィルハーモニー交響楽団（名フィル）の第378回定期演奏会の1日目。会員を対象とした公開ゲネプロの開始1分後に地震は起きた。ゲネプロは中断となり、約150人の聴衆が客席外に避難した。結局ゲネプロは中止。コンサートはおこなわれたが、東北地方での惨禍が新聞やテレビで伝えられると、翌日の定期2日目には楽団員主導の形で義援金を集める動きになり、楽団員自らが募金箱を持ってロビーに立ち、多くの義援金が寄せられた。大震災の犠牲者への黙祷で始まった小泉和裕指揮のこの日のコンサートを、音楽評論家の横原千史は「震災復興の未来を託したくなるような感銘深い演奏であった」と述べている（名フィル第379回定期演奏会プログラムの『定期批評』）。

大震災から2日後の13日には、オーケストラ・アンサンブル金沢の名古屋定期公演。指揮の飯森範親の「演奏をするのは複雑な心境ですが…」という挨拶と黙祷で始まり、まず、プログラムにはないJ.S.バッハの《G線上のアリア》が静かに奏でられた。後半はフォーレの《レクイエム》。想像を絶する被害の様子が次第に明らかになっていった頃だったので、安らぎにあふれた鎮魂の響きは心にしみた。ステージにも客席にも、今までとは違う何かが漂っていたように感じたのは私だけだろうか。ロビーでは義援金の呼びかけ。阪神大震災の折、同楽団の名古屋公演で指揮者の故岩城宏之が神戸の復興のために協力を、と訴えていたことが思い出される。



名フィル楽団員による募金活動(3月12日 定期演奏会)

### 相次ぐキャンセル

大震災の影響が出始めたのは週が明けてからである。12日と14日に水素爆発を起こした福島第1原発の危機的状況が加わり、事態は悪化。外国人音楽家が来日を取りやめ、コンサートのキャンセルが相次いだ。15日のパク・ヘユンのヴァイオリン・リサイタル、17日のチョン・ミョンフン指揮のチェコ・フィルハーモニー管弦楽団、19日のヒラリー・ハーンのヴァイオリン・リサイタル、27日のイアン・ポストリッジのテノール・リサイタル。ウィーン・フィルのメンバーによる「トヨタ・マスター・プレイヤーズ、ウィーン」も6都市7公演を見合わせ、名フィルとの合同による4月20日の「ウィーン・グランド・コンサート」と28日の「ウィーン・プレミアム・コンサート」が中止となっている。

都市機能が麻痺した首都圏では、多くのコンサートや催しが中止された。3月19日から27日にかけての「地方都市オーケストラ・フェスティバル2011」もその一つで、21日にはセントラル愛知交響楽団（セントラル愛知）が常任指揮者の齊藤一郎とともに出演することになっていた。曲目は、地元名古屋の作曲家 水野みか子の《レオダマイア》や、委嘱による野平一郎編曲のバッハの《ゴールドベルク変奏曲》など。東京でも注目されていた公演だけに本当に残念であった。コンサート文化は平和で安定した社会があってこそのものだ、ということをつくづく実感させられた。

### 支援コンサートを

一方で、震災から1週間足らずで被災者支援のための義援金を募るチャリティコンサートが喫茶店やホテルのロビーで開かれ、新聞でも取り上げられている。

やがて規模は大きくなり、名古屋市文化振興事業団と地元の音楽家たちが結集し、3月30日に中京大学文化市民会館プルニエホールで「～地元アーティストが贈る～名古屋からの応援歌」を無料で開催し、会場で義援金を募った。特別出演の「名古屋おもてなし武将隊」に続いて、中区の喫茶店でいち早くチャリティコンサートを

行った箏の浅井大美女とグローバルミュージックネットワーク。名古屋のクラシック界ではおなじみの声楽の奥村晃平と夏目久子、ピアノの武本京子、ピアノの佐々木侑利子とチェロの小川剛一郎とヴァイオリンの松実健太。声楽の加藤典子が指揮する合唱の「かの子会」が登場し、華道からも石田巳賀が舞台飾花で協力した。



「～地元アーティストが贈る～名古屋からの応援歌」  
開演前のロビーの様子

広報期間はわずかだったが、開演時に1階席は満席。聴衆は情感豊かな美しい調べに聴き入った。出演者は演奏が終わると客席にメッセージ。武本京子は、「被災地の状況を見るにつけ、私は今、音楽をやっていていいのだろうかと思いましたが、今こそ音楽で愛と勇気を届けなければいけない、日本人は今こそ心を一つにして復興に向かっていかなければいけないと思うようになりました」と、演奏家としての役割を問いかける胸の内を語った。



(同上)心を一つにしたフィナーレ

それから2週間後の4月14日。緑区の「みどり音楽祭」と連動して、緑文化小劇場で「東日本大震災みどりチャリティコンサート」が開かれた。前半は、緑区を拠点に活動している和太鼓の「どっこい衆 弥栄」、高須道夫の指揮による「合唱団みどり」、箏の浅井大美女と尺八の磯村琴保とヴァイオリンの辻和余（グローバルミュージックネットワーク）。後半はセントラル愛知が出演し、J.S.バッハの《G線上のアリア》やJ.シュトラウスⅡ世の《美しく青きドナウ》、武本京子を独奏にグリーグのピアノ協奏曲を演奏した。指揮は名フィルのコンサートマスター後藤龍伸。思いがけない組み合わせにも興味は注がれた。客席は溢れんばかりに満席。威勢の良い和太鼓で始まったコンサートは、出演者と聴衆が一緒になって歌った《ふるさと》で幕を閉じた。



「東日本大震災みどりチャリティコンサート」全員合唱の《ふるさと》

## 演奏家魂

ところで、外国人演奏家がすべて来日をやめたかというそうではない。世界的なヴァイオリニスト、ギドン・クレーメルによるトリオは、当初予定していたピアニストがキャンセルしたため、小説家でもある異才のピアニスト、ヴァレリー・アフアナシエフに変更して来日。日本ツアーをおこなった。

名古屋公演は4月15日、三井住友海上しらかわホールにて。クレーメルも、アフアナシエフも、チェロのG.ディルバナウスカイトもすばらしかった。気骨のある音楽表現とはこういうものかと思わせる白熱の演奏だった。プログラムによると、クレーメルは震災直後から「こんな時こそ日本に行って力になりたい」と来日を希望していたという。また、急遽来日することになったアフアナシエフは、東北の犠牲者を悼む一編の詩を捧げ、日本に心を寄せている（詩はプログラムに掲載）。

## 支援活動は続く

セントラル愛知は4月23日と30日に中区栄のナディアパークのアトリウムで被災地支援のチャリティコンサート。23日は、団員によるアンサンブルや野村祐子と正絃社会奏団の合奏など7つのコンサートが並んだ。吹き抜けの広々とした空間にヴァイオリンやオーボエの音がさわやかに響き渡る。椅子に座って聴いていた人が時折静かに立ち上がり、そっと募金箱に募金。セントラル愛知は長い時間がかかる復興のために、これからもこのようなコンサートを続けるという。



セントラル愛知による被災地支援  
チャリティコンサート(4月23日)

名フィルは3月30日の「コバケン・スペシャル」や4月15、16日の第379回定期演奏会でロビーコンサートをおこなって義援金を募り、5月14日には中京大学文化市民会館オーロラホールで「東日本大震災チャリティ・コンサート」を開催。国際的に活躍する名古屋ゆかりの若手演奏家、島田真千子、川本嘉子、亀井良信、広瀬悦子をソリストに、竹本泰蔵が多彩な曲目を指揮した。祈りと思いが込められた演奏。名フィルもまた、義援金募金活動を継続していく予定である。

名フィルやセントラル愛知以外にも、さまざまな支援コンサートや活動が催されている。今回の大震災で、自分には何ができるのだろうかと多くの芸術家が自問自答しているという。人の命や生活を直接救うわけではないが、人間を人間たらしめる営みである文化や芸術。言葉にならないほどの悲惨な現実の中で、音楽が悲しみ傷ついた人々の心のひとしずくの滋養となることを信じたい。

# この人と...



箏・尺八 演奏家・作曲家

## ひら つか よし お 平塚 芳朗さん 上

### 和洋の共演—現代邦楽の担い手として

平塚芳朗氏は、箏・尺八の演奏家であり、現代邦楽の優れた作曲家である。箏曲、尺八曲、また箏・尺八とオーケストラとの合奏曲など、次々に新しい箏・尺八を活かした現代邦楽を作曲。これは自身が率いる晃麗邦楽会のみならず、広く箏曲・三曲の会で演奏されている。また、1974年以降166回の海外コンサートで、箏曲・尺八の魅力を広く世界に紹介。70歳を越えた現在も名古屋を拠点に世界を飛び回っている。（聞き手：飯塚恵理人）

### 生い立ちと両親の音楽活動

平塚芳朗氏は、1936（昭和11）年5月18日に名古屋市西瓦町（今の東新町南東）で誕生された。

父は尺八の初代 平塚晃山、母は箏曲家の麗明都志子で共にプロであったため、小さいころから尺八・箏曲に自然に興味を持つようになったといわれる。大正末年に名古屋放送局（現在のNHK名古屋放送局）ができ、音楽の時間には、箏曲・尺八・三曲も盛んに流されていた頃である。

（※三曲とは、箏・三絃・尺八の三種類の楽器の合奏のこと）



昭和初期、名古屋放送局にて  
左から平野八重子（麗明都志子弟子）・麗明都志子・  
初代平塚晃山・高木要山（初代晃山弟子）

初代晃山は都山流に学び、そこから1933（昭和8）年に独立して晃山流を立てられた。平塚氏の元には、昭和初期の名古屋放送局での箏曲の録音風景の写真が残されている（左下）。平塚氏のご両親が早くからラジオ放送に参加されていたことを示している。また、ラジオ放送では、ひとつの番組の時間が15分ないし20分と単位が決まっているため、従来の曲をそのまま演奏しては時間に合わない。放送するためには、箏曲・尺八・三曲も、編曲や新曲を作る必要に迫られていた。そのため、初代晃山は積極的に新しい尺八曲の作曲に取り組んでいる。また、大正時代までの三曲家は江戸時代の当道の流れを汲み、検校・勾当など、玄人はすべて盲人演奏家だった。このため稽古は暗譜が原則で、整備された楽譜はなかった。尺八でも暗譜が主だったが、初代晃山は当時の都山流が楽譜に



1歳の頃、母・姉2人と

よる稽古であると聞いて都山流で学んでおり、現在の昇山流の楽譜は初代が都山流から学んだものに独自の工夫を加えてなりたっている。

平塚氏はこのような箏曲・尺八・三曲の変換期に誕生されたのだが、幼いころから非常に音楽が好きで、しかも音感に優れていたようで、4歳くらいから母親に言われて弟子の箏の調弦ができたと言われる。尺八の稽古も幼いころから始められた。尺八は合奏した時に出遅れてはならない。父は弟子にも厳しい先生だったが、叱られた覚えはないと言われる。幼少期から音楽の才能に恵まれ、かつ熱心であられたからだろう。



虎溪山にて初代 昇山と合竹（右が芳朗氏）1968年

## 高校卒業後、音楽活動を開始

戦争は、平塚氏にも大きな影響を与えた。市内の小川小学校に入学されるが、小学校2年生の時に父親の出身地である宝塚市に疎開、転校。そこで終戦を迎えた。その後松阪市へ移り、高校卒業後に名古屋へ戻ってから音楽活動を始められた。

1955（昭和30）年、19歳で尺八曲「春のよろこび」と「落椿」（尺八二重奏曲）を作曲したのが作曲家として最初だった。このころ大曾根に教室を持ち、また父もお世話になっていた東新町のCBC西隣の曹流寺に邦楽教室を開いた。続いて「秋の楽」（尺八と箏の二重奏）、「数え唄変奏曲」「青春舞踏曲」「夕鶴幻想曲」とこの時期に立て続けに作品を書き、発表した。昭和30年代前半、NHK名古屋放送局（CK）が「CK邦楽の集い」をはじめとして多くの公開録音を行い、その中で優秀な演奏をラジオで流していた。この公開録音は名古屋の若手箏曲・尺八演奏家の腕を磨く場であり、ここで発表してラジオで放送されるということも大きなやりがいのある仕事だった。平塚氏のこの時期の作品はこれら公開録音のために書かれた作品も多い。

## 「夕鶴幻想曲」

「夕鶴幻想曲」には忘れられない思い出がある。この作品は木下順二作の『夕鶴』に着想を得て作曲された曲で、NHKで放送が決まり、録音も行われた。その段

階で木下氏から「安易に『夕鶴』を名前につけて発表することは困る」と放送・発表にストップがかかった。平塚氏は木下氏に説明に出かけたが、木下氏の態度は変わらず、放送は不可能かと思われた。平塚氏は、木下氏に「一度聴いていただいた「現代箏曲・平塚芳朗作品集」1968年」と録音を渡し、辞去された。その後録音を聴かれた木下氏より「この作品はすばらしく、大変気に入ったのでぜひ放送してください」とNHKと平塚氏に連絡が入り、無事放送が行われたとのことだった。

現在でも全国の邦楽のコンサートや日本舞踊の会などで、「夕鶴幻想曲」の演奏は数多い。平塚氏の曲は詩情豊かで物語の音楽的表現に大きな特長がある。そして洋楽のストリングスカルテットとの合奏もよく調和して、どこか日本的な懐かしさや暖かさを感じさせる。この点が世界各地の演奏旅行で平塚氏の音楽が受け入れられ歓迎される大きな理由であろうと思う。この「夕鶴幻想曲」は平塚氏の代表曲の一つと言って良いだろう。



東芝EMIから全国発売されたファーストアルバム（LP）「現代箏曲・平塚芳朗作品集」1968年



テレビドラマの箏の指導（左は吉永小百合さん）1971年

## バーンスタイン氏に認められる

アメリカが生んだ世界的指揮者で作曲家でもあるレナード・バーンスタイン氏が1961（昭和36）年に初来日した時、「箏を聴きたい」と言われた。当時、バーンスタイン氏のアシスタントとして同行していた小澤征爾氏の通訳案内で、母親の弟子の麗明枝見子氏とともに滞在されていた名古屋駅前の毎日ホテルに伺い、「青春舞踏曲」（第一箏 平塚氏）と「秋の楽」（尺八）を演奏した。バーンスタイン氏は平塚氏の曲を大変評価し、後日平塚氏に手紙を出されている。日本人のみならず、バーンスタイン氏のような海外の著名な大音楽家に認められたことは、後年海外での演奏活動と箏曲の普及に力を入れる大きな契機となった。（次号に続く）

# ピックアップ

## 南文化小劇場 昔話シリーズ1

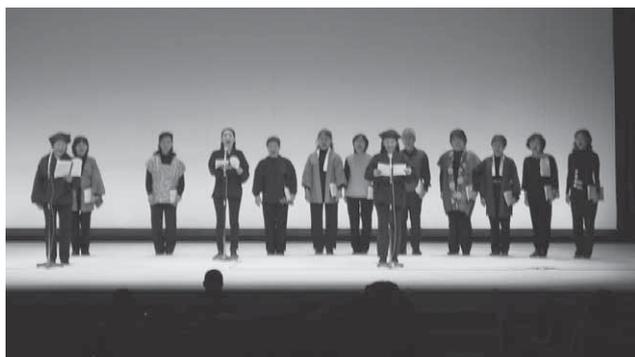
南文化小劇場（名古屋市南区千電通2-10-2）が今春リニューアルオープンしたことをご存知だろうか。これを記念して、3月30日に「語り継ぐ地域の歴史・文化」のイベントが開催された。保存会のみなさんによる熱田神楽とならんでこの日の舞台を飾ったのが、昔話のリーディングである。南区とその周辺に伝わる伝承から8つの物語が朗読され、30代から70代までおよそ20名の講座受講生がステージに立った。屋台骨を支えたのは栗木英章さん（作品構成）、中村透子さん（演出、指導）といった劇団名芸の方々である。

朗読というと学校や家庭での読書、またテレビやラジオでのアナウンサーや俳優のそれを思い浮かべる人も多いだろう。そうした場では一人で1つのテキストを読みとおす形が一般的だ。けれど、今回のステージでは一話を数名で役割分担しながら読んでいく。役柄の衣装をまったり、身振り手振りが加わったりするわけではないが、役割分担ひとつで演劇的なおもしろさが加わるのが興味ぶかい。何より印象に残ったのは、読み手が心から物語世界を楽しんでいることが伝わってくる、まっすぐでのびやかな声であった。ひととき眠りについていた劇場も、この声でぱちりと目を覚ましたのではないだろうか。

出演者の多くは、一昨年南文化フェスティバル「伊勢湾台風50年企画公演」に朗読で参加した経験を持つとのこと。このときも公演に先立って朗読の基本と実践を学ぶ講座が開講されたが、今回は新メンバーも加わりさらに9回の講座で学びを深めて当日に臨んだ。

「協力しながら物語を創りあげることがたのしい」「自分なりの表現を工夫できることが魅力」といった出演者の方々のお話を伺って改めて気づいたのは、朗読や語りといった場は語る者と聴く者との双方がいてはじめて成り立つということだ。個々のストーリーやメッセージも大切だが、「伝えること」や「つながること」の瞬間に立ち会えることこそが、朗読の醍醐味なのだろう。

もちろん、かつて製塩業が盛んだった地域ならではの「牛追いの庄助どんの話」や、熱田参りにやってきた旅人が勘違いから騒動をひきおこす「だんごとぼたもち」などから、在りし日のまちの様子に思いをはせることもできる。また8つの昔話のなかには名古屋弁で朗読されるものもあり、言葉のおもしろさを再発見できる機会でもあった。「シリーズ」と銘打たれているので、第2弾、第3弾を楽しみに待ちたい。(M)



「昔話のリーディング」



リーディング講座の様子

## 高校生からシニアまで世代をこえた仲間で贈る“みんなのリーディング” 「色とりどりのラブレター ～伝えたい、本当のキモチ～」出演者募集

ラブレター集の中から珠玉の作品を厳選!思わず誰かに聞いて欲しくなる、お気に入りのラブレターがきっと見つかります。丁寧に指導しますので、経験のない方でも大丈夫です。本格的な照明・音響・舞台美術を伴った感動の舞台を世代をこえた仲間と一緒に作りませんか?

### オーディション

- 日 時 8月20日(土)午後
- 会 場 芸術創造センター リハーサル室
- 内 容 短い作品(課題)を読んでいただき、簡単なオーディションです。
- 応募資格 高校生以上で朗読に興味があり、下記練習及びリハーサル、公演に必ず参加できる方。  
(練習日数が少ないため、欠席はできません) ※過去の出演者は応募不可。
- 募集人数 30名
- 応募料 無料(ただし、出演が決まった方はテキスト代、傷害保険代を含む練習費用5,000円が必要です)
- 応募方法 所定の応募用紙を郵送してください。(郵送が難しい場合は、FAXでも受け付けます)
- 締 切 〈郵送〉7月27日(水)〈消印有効〉  
〈持参〉7月28日(木)17:00まで



〈構成・演出〉  
小田 靖幸



〈講師〉  
益川 京子

### 公 演

- 日 時 12月3日(土)14:00
- 会 場 芸術創造センター
- 入 場 料 1,000円〈全自由席〉※販売にご協力いただきます。
- 練 習 日 9月23日(金・祝)・30日(金)  
10月 7日(金)・14日(金)・21日(金)・28日(金)  
11月 4日(金)・11日(金)・18日(金)・25日(金)・26日(土)  
12月 1日(木)・ 2日(金) ※2日は舞台リハーサル

- 助 成 芸術文化振興基金
- 後 援 名古屋市教育委員会
- 問い合わせ 公益財団法人 名古屋市文化振興事業団  
TEL 052-249-9387 FAX 052-249-9386



22年度「ピノキオの冒険」

## なごや子どものための巡回劇場(上期)

なごや子どものための巡回劇場は、日ごろ生の舞台に接する機会の少ない子どもたちに、テレビ等では味わえない感動を伝えたいと、昭和55年から始めました。お近くの会場へ、ご家族あるいはお友だち同士で、お気軽にお出かけください。

- 料 金 子ども(3歳以上中学生以下) 500円  
おとな 800円
- 主 催 なごや子どものための芸術劇場  
実行委員会  
(名古屋市、公益財団法人名古屋市文化振興事業団、財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団、愛知児童・青少年舞台芸術協会)
- 後 援 名古屋市教育委員会  
名古屋市子ども会連合会
- 問い合わせ 公益財団法人  
名古屋市文化振興事業団  
TEL 052-249-9387  
FAX 052-249-9386

### 劇団うりんこ

- 「おとうさんはウルトラマン」  
7月23日(土) 西文化小劇場
- 7月24日(日) 中村文化小劇場
- 7月30日(土) 港文化小劇場
- 7月31日(日) 天白文化小劇場  
11:00、14:00(2回公演)

### 越智インターナショナルバレエ

- 「白鳥の湖」全幕  
8月 9日(火) 中区役所ホール
- 8月10日(水) 熱田文化小劇場
- 8月13日(土) 中川文化小劇場
- 8月14日(日) 名東文化小劇場  
11:00、14:30(2回公演)

### 名古屋三曲連盟

- 「知ってる?日本の音」  
☆☆☆箏・三味線・尺八☆☆☆  
8月20日(土) 北文化小劇場
- 8月21日(日) 東文化小劇場  
11:00、14:00(2回公演)

### セントラル愛知交響楽団

- 「ハローオーケストラ」  
8月27日(土) 瑞穂区役所講堂
- 8月28日(日) 千種文化小劇場  
11:00、14:00(2回公演)



## ショートストーリーなごや 第5回コンテスト事業 ～名古屋を舞台としたショートストーリーを募集します！

名古屋の魅力を発見し広く発信するために、有名な観光地はもちろん、あまり知られていない魅力的な場所や、日ごろ見かける道、河、路地裏、公園など、自分だけのお気に入りの場所。そんな名古屋の魅力的な場所が描かれたショートストーリーをお待ちしています。

副賞 大賞1編50万円 佳作2編10万円

最終選考委員 (50音順) 委員長 清水 義範 (作家)  
委員 清水 良典 (文芸評論家)  
堀田 あけみ (作家)  
まなべ ゆきこ (脚本家)  
三田村 博史 (作家・中部ペンクラブ会長)

応募資格 不問 ※ただし前回の受賞者は応募不可です。

### 募集要項 ■募集作品

次の(1)～(3)に該当するショートストーリー(短編小説のこと。日記、エッセイ、評論、または映画や演劇等のシナリオは不可)とします。

- (1)名古屋を舞台とした作品であること  
※名古屋市内の地名や場所が読者に分かる内容としてください。
- (2)日本語で書かれた、2,000字～8,000字の作品であること  
※行変えによる空白は文字数に含みます。作品タイトル、行末の句読点や括弧は除きます。
- (3)応募者が創作した未公表の作品であること  
※作品中に別の著作物等が含まれる場合には、著作権者等の許諾を得たうえで、その旨を作品の欄外等に記載してください。

### ■提出様式 次の(1)～(4)のとおりご提出ください。

- (1)作品原稿とは別に応募票を添付  
※応募票は、ウェブサイト(<http://www.s-story.org/>)よりダウンロードしてください。
- (2)原稿は縦書きで、1ページあたり40字×40行(手書きの場合は400字詰原稿用紙を使用)
- (3)1ページ目の原稿用紙欄外や余白等に作品タイトルを、また全ての原稿にページ数を明記  
※名前など、作品タイトル及びページ数以外の事項は、一切記載しないでください。
- (4)原稿・応募票ともにA4規格の用紙を使用  
※郵送・持込の場合は、ホッチキスや紙紐などで綴じないでください。ただしゼムクリップは可とします。  
※メール応募の場合は、原稿・応募票ともに本文に記載せず、添付ファイルにてご応募ください。

応募締切 9月30日(金)〈必着〉

発表 平成24年1月頃、受賞者に通知します。

諸権利等 受賞作品の著作権等諸権利は主催者に帰属するものとします。応募作品の返却はしません。

特別協賛 名古屋鉄道株式会社、NPO法人イエロー・エンジェル、東和不動産株式会社

主催/応募先・問い合わせ ショートストーリーなごや実行委員会

公式サイト <http://www.s-story.org/>

【構成/名古屋市、中日新聞社、(株)スターキャット・エンタープライズ、(公財)名古屋市文化振興事業団】

〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18-1 ナディアパーク8階 公益財団法人 名古屋市文化振興事業団内  
E-mail [s.story@bunka758.or.jp](mailto:s.story@bunka758.or.jp) TEL 052-249-9387 FAX 052-249-9386

※作品の到着確認や選考に関するお問い合わせにはお答えできません。



第4回受賞作品集

### 舞台VTR映像専科

ステージの感動を格調高い映像で追求します。



ビデオソフトの企画・制作

有限会社 エーワン・ビデオ・システム  
TEL (052)896-2256 FAX (052)896-4100



ハードシステム部門  
AV機器販売部門(家庭用)  
映像企画・制作部門  
放送関連部門  
機器設備レンタル部門

映像メディアの未来を創る  
生きた情報を発信

TVS 株式会社 東海ビデオシステム  
名古屋市中区上前津二丁目14-15 TEL <052>322-6541(代表) 6562(営業部)



■ホール舞台音響設備 販売、設計、施工、保守

株式会社 エーアンドブイ  
TEL 464-0846  
名古屋市中区千種区城木町二丁目98  
TEL 052(761)5400  
FAX 052(761)0909

## アートピア主催事業のご案内

### 子どもアートピア探検ツアー～ヒップホップをおどってみよう！～

舞台の演出効果がよく分かる短いダンスステージをご覧いただき、その照明や音響の設備などを実際に舞台の上や舞台裏から見ていただきます。そして簡単な振り付けを覚えてみんなで踊ってみましょう！

日 時 7月27日(水) 13:30～

会 場 青少年文化センター アートピアホール

デモンストレーション・指導 スタジオ・フィネス 参加費 無料

募集人数 小学校1～6年生の児童とその保護者(3名以上でも可)  
30組(応募者多数の場合は抽選)

申込方法 往復はがきにて、下記の内容をご記入のうえ、  
7月18日(月) <消印有効> までにお申し込みください。

①参加者氏名・性別・年齢(児童、保護者とも、ふりがなを付記。児童は学年も記入) ②住所 ③電話番号



### 第3回アートピア子どもワークショップフェスティバル

夏休みの1日、楽しいワークショップにお弁当持参で参加しませんか？

手作りおもちゃ、人形、フラワーアレンジ、楽器体験、お話などをつくって発表したり、身体表現をするなど、とって楽しい内容です。それぞれのワークショップと午後の発表会の両方に必ず参加してください。

日 時 7月30日(土) 10:00～15:10(1日通しての講座となります)

時間割 10:00～10:30 導入(みんな友だちになろう)  
10:30～14:00 それぞれのワークショップ(途中で昼食)  
14:00～15:00 全体会(発表会で鑑賞しよう)  
15:10 終了

会 場 青少年文化センタースタジオ・研修室・練習室など

申込方法 往復はがきにて下記の内容をご記入のうえ、7月9日(土) <消印有効> までにお申し込みください。  
(応募者多数の場合は抽選。幼児・小学生は保護者同伴)

①参加したいワークショップ名 ②参加者氏名(5人まで)・性別・学年が年齢(児童、保護者とも、ふりがなを付記) ③住所 ④電話番号

申込・問合せ 〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18-1 ナディアパーク8階

青少年文化センター「アートピア探検ツアー」係または「ワークショップフェスティバル」係  
TEL 052-265-2088 FAX 052-265-2187

講座名	人形つくて劇あそび	木目込みカエル	簡単織り機でテーブルマットを作ろう	やさしい手袋人形作り	カオスの原理で動く龍をつくろう	子どもフラワーアレンジ	体験広場 [「お琴を弾いてみましょう」]	情報交換広場 [「大好きな一冊の本」]
講師	川村 巖・岩井田 浩江 (人形劇団むすび座) いのご福代	鈴 有美子 (布絵作家)	三輪義信 (日本おもちゃ会議 つくり手会員)	細田愛子(ひばりの会) 高橋一元 (東海学園大学准教授・中部児童文学会)	渋谷 寿 (名古屋女子大学児童教育学科教授) 宇野民幸 (名古屋女子大学児童教育学科准教授)	田中明日香 (いけばな末生明日香 会代表)	八事箏曲の会 (生田流職格者の会)	村上美智子(自遊らんど) 石田見子(あさひ文庫) 中村美知子 (市児童図書館選定委員)
対象	5歳から小学生まで	小学3年生から大人まで	9歳から大人まで	3歳から8歳まで	小学生	幼児～小学生	幼児から大人まで	幼児から大人まで
定員	15～20名	10名	15名	12名	15名	18名	先着順 随時	先着順 随時(午前中のみ)
参加費	800円	800円	800円	500円	800円	700円	無料	無料
その他	・はさみ、筆記用具、 ノート持参	・布用の小さな はさみ持参	・持ち帰り用袋 持参	・工作に ふさわしい服装	・持ち帰り用袋 持参	・はさみ(紙用)、ピンセット、 持ち帰り用袋持参	・琴爪がある方は お持ちください	

## ナゴヤ・アート・ナビ 催し物掲載のご案内

▶ <http://www.art758.jp>

「ナゴヤ・アート・ナビ」ウェブサイトでは市内文化施設の催事案内のほか、市民主催の催し物の情報をご紹介します。掲載を希望される方は、ホームページ([www.art758.jp](http://www.art758.jp))にアクセスしてお申し込みください。ご応募お待ちしております。

☎名古屋文化振興事業団 052-249-9385

ワクワク・ドキドキ特典がいっぱい!

使う! 創る!  
観る!

## 名古屋市文化振興事業団 『友の会』会員大募集

エンジョイコース(年会費3,000円)

- ・事業団主催公演や提携事業のチケット割引!
- ・情報満載の「友の会だより」などを毎月お届け!
- ・提携ショップでのお買い物の優待割引!
- ・会員の皆さまが参加できるイベント開催!など

クリエイティブコース(年会費15,000円)

- ・上記エンジョイコースに加え、次の特典も受けられます。
- ・会員主催の公演チラシを事業団施設に無料配布!など

詳しくは、事業団「友の会」事務局まで TEL 052-249-9385

## 「なごや文化情報」編集委員

飯塚恵理人(椋山女学園大学文化情報学部教授)  
小沢優子(名古屋音楽大学講師)  
倉知外子(オクダ モダンダンス クラスタ副代表)  
酒井晶代(愛知淑徳大学メディアプロデュース学部教授)  
田中由紀子(美術批評/ライター)  
はせひろいち(劇作家・演出家)

当事業団の募集する事業にお申し込みいただいた場合の個人情報、当該事業に関する事務連絡及び、当事業団の文化事業に関する案内のみに使用させていただきます。

## ナゴヤコドモ アートビレッジ

### ナゴヤコドモアートビレッジ

ナゴヤコドモアートビレッジは、子どもたちがさまざまな芸術に触れることで普段味わえない感動や発見があることを願い、7月21日(木)～23日(土)の期間中、中京大学文化市民会館を会場として、クラシックコンサートとさまざまなジャンルのワークショップを開催いたします。

### コンサート

#### オーケストラと音楽世界旅行～いろんな国のいろんな音楽～

名古屋フィルハーモニー交響楽団の演奏による子どものためのクラシックコンサートを開催いたします。今年は世界の楽曲が楽しめる内容となっています。コンサートチケットを購入された方は終演後に開催されるバックステージツアーにご応募いただくことができます。

日 時	7月21日(木) 14:00
会 場	中京大学文化市民会館 オーロラホール
出 演	名古屋フィルハーモニー交響楽団 田中祐子(指揮) 植村太郎(ヴァイオリン) 橋本千波(歌・司会)
曲 目	スラヴ舞曲/ドヴォルザーク チャルダッシュ/モンテ 魔法使いの弟子/デュカ 他
料 金	子ども 700円(3歳以上中学生以下) おとな 1,000円〈全指定席〉



名古屋フィルハーモニー交響楽団

#### 終演後には バックステージツアー

※コンサートチケットを  
購入された方のみ対象

**応募方法** 往復ハガキに下記の内容を記入のうえ、**6月20日(月)〈消印有効〉**までに応募ください。応募された方の中から抽選で**60名様**をツアーにご案内いたします。  
〈往信〉①参加者全員のお名前(フルネーム)  
※ハガキ1枚につき5名まで応募可能です。  
②応募者の郵便番号・住所・お名前  
③電話番号  
〈返信〉ご自分の郵便番号・住所・お名前

**応募先** 〒460-0008  
名古屋市中区栄三丁目18-1 ナディアパーク8階  
名古屋市文化振興事業団  
「アートビレッジ バックステージツアー」係



### ワークショップ

名古屋市民芸術祭賞(音楽部門)を受賞した相可佐代子、名古屋在住の芥川賞作家の諏訪哲史など幅広い分野の講師を招き、ワークショップを実施します。全15講座ありますのでぜひご応募ください! **6月30日(木)〈消印有効〉**までに往復ハガキのお申し込みが必要です。詳しくはホームページをご覧ください。

日 程	7月21日(木)～23日(土)
時 間	午前の部10:00 午後の部14:00
会 場	リハーサル室、会議室
内 容	(声楽)相可佐代子【「歌う」ってむずかしい??】 (華道)松浦友香【見て、感じて、生けてみよう「いけばな」】 (演劇)劇団うりんこ【おもってみよう、つくってみよう、劇づくり体験】 (ジャズダンス)佐藤嘉代【J-POPのダンスを覚えよう!】 (版画)片山 浩【かんたん版画、モノタイプ】 (三曲)伊藤三津江【ふれてみよう～日本の楽器 箏と三絃～】 (茶道)山口宗浩【おいしく楽しく「茶道体験」してみよう】 (コンピュータミュージック)日栄一真【楽器や声をレコーディングしてみよう!】

**料 金** 無料～材料費1,000円程度

**応募方法** 〈往信〉①希望のワークショップ名 ②参加者全員のお名前・学年・年齢(3名まで)  
③応募者の郵便番号・住所・お名前 ④電話番号  
〈返信〉ご自分の郵便番号・住所・お名前

**応募先** 〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18-1 ナディアパーク8階  
名古屋市文化振興事業団 「アートビレッジ」係

※1つのワークショップにつき1通のハガキにてご応募ください。 ※応募多数の場合は抽選とさせていただきます。



〈ホームページ〉<http://art-village.info>

〈主催〉なごや子どものための芸術劇場実行委員会 〈後援〉名古屋市教育局

〈問い合わせ〉公益財団法人 名古屋文化振興事業団 TEL 052-249-9387